



特定非営利活動法人

おもしろ科学たんけん工房

たんけん通信

年々参加者が増加している 青少年のための科学の祭典 神奈川県立青少年センター 主催 神奈川大会

今年は1130名の入場者でにぎわいました。昨年の852名に比べて33%の増加でした。おもしろ科学たんけん工房も、「くるくるリング」等簡単工作3種類と、展示（「ジェットコースター」「手回し発電機」「ピタゴラスイッチ」）を出品し、たくさんの親子連れのみなさんに喜ばれました。また工房のメンバーの参加協力も過去最高で、延べ29人が、この催しに参加しました。

平成23年8月7日(日)10:00~15:00:実験ショーと科学工作:場所=県立青少年センター(紅葉坂)

簡単工作コーナー（くるくるリング）



定番の展示体験コーナー
になった
ジェットコースター

ジェットコースターに興じる子どもたち

☆ おもしろ科学たんけん工房は、来春 2012年4月1日 創立10周年を迎えます。☆

2011年度 第2期

参加者募集中 10月6日まで

科学体験活動推進スタッフ養成研修
今年度第2期研修が始まります。

実習オリエンテーション：10月30日(日)

集合研修： 第1回 12月 23日(祝)

第2回 1月 22日(日)

会場：アートフォーラムあざみ野

実習は 11月中旬から3月中旬までの予定。

実習会場は横浜市内中心
横浜市教育委員会後援；



研修 集合実習風景(資料映像)

おもしろ科学体験塾

11月～1月の予定表

この表は予定表です。お申込に当たっては、実施の約1ヶ月前に出るチラシ、またはホームページの募集案内でご確認ください。

記号	実施日	曜日	時間帯	実施場所	テーマ名
SH20	11/5	土	午前	汐見台小	ICラジオを作ってみよう
A36	11/5	土	午後	アートフォーラム	レモンや食塩水で電池を作ろう
K94	11/12	土	午後	鵜沼中学校	風に向かって走る 風力車を作ろう
M79	11/12	土	午後	永野小学校	光る星座ボードを作ってみよう
L69	11/12	土	午後	柏陽高校	ゲジゲジUFOを作ろう
SW27	11/12	土	午後	東山田中CH	紙コップでヘッドホンをつくろう
T102	11/19	土	午後	フォーラム	光る星座ボードを作ってみよう
J84	11/19	土	午前	科学館	ゲジゲジUFOをつくろう
AS20	11/19	土	午後	榎が丘小	手回し発電機で学ぶ 電気の作り方
YS20	11/19	土	午後	いぶき野小CH	ヘリコプターを作ってみよう
S108	11/19	土	午後	湘南台高校	三角翼ヒコーキを作ってみよう
MN5	11/26	土	午後	フォーラム南太田	ソーラーオルゴールを作ろう
SW28	11/26	土	午後	東山田中CH	静電気のふしぎを実験/静電気モーターを作る
SG21	12/3	土	午前	杉田小	モーターで動く ホバークラフトを作ろう
AS21	12/3	土	午後	あざみ野第一	見よう さわろう 音のせかい
K95	12/10	土	午後	鵜沼中学校	紙ブーメランを作ってみよう
L70	12/10	土	午後	柏陽高校	風向計を作ってみよう
SW29	12/10	土	午後	東山田中CH	ICラジオを作ってみよう
M80	12/17	土	午後	永野小学校	光と色のふしぎな世界--簡単カメラで光の実験
J85	12/17	土	午前	科学館	てんびんばかりを作ってみよう
ST23	12/17	土	午後	希望が丘小	たまごを科学しよう
S109	12/24	土	午後	湘南台高校	太陽熱風車をつくろう
T103	12/24	土	午後	フォーラム	レモンや食塩水で電池を作ろう
MN6	12/24	土	午後	フォーラム南太田	マサツとスベリのせかい-くるくるリング
SR5	12/24	土	午後	白幡小	インドアプレーンを作ってみよう
K96	1/14	土	午後	鵜沼中学校	静電気のふしぎを実験/静電気モーターを作る
SH21	1/14	土	午前	汐見台小	太陽熱風車と 風力発電機を作ろう
MN7	1/14	土	午後	フォーラム南太田	ヘリコプターを作ってみよう
M81	1/21	土	午後	永野小学校	転がれ、進め、ジェットコースター
L71	1/21	土	午後	柏陽高校	静電気のふしぎを実験/静電気モーターを作る
YS21	1/21	土	午後	森の台CH	信号機を作ってみよう
S110	1/28	土	午後	湘南台高校	ICラジオを作ってみよう
T104	1/28	土	午後	フォーラム	転がれ、進め、ジェットコースター
J86	1/28	土	午前	科学館	鏡が作る不思議な世界 万華鏡を作ってみよう
A37	1/28	土	午後	アートフォーラム	静電気のふしぎを実験/静電気モーターを作る

フォーラム=男女共同参画センター横浜

※ CH=コミュニティーハウス

アートフォーラム=男女共同参画センター横浜北

おもしろ科学たんけん工房 藤沢地区グループ便り No.18

藤沢地区として初めて「スタッフ養成講座」を開催、6名の方が入会の予定です

今回のたんけん通信は、体験塾で子供たちと一緒に実験や講義に取り組むスタッフが、どのようにして子どもたちの前にデビューするかをご紹介します。

今年度、藤沢地区では、初めて「科学体験活動推進スタッフ養成講座」を開催しました。この養成講座は、私たち「おもしろ科学たんけん工房」の活動を一緒に推進して下さる方を募り、仲間になっていただくことを目的に開催しました。まずは講座を受講する前に、説明会、体験塾の見学会を行ない、たんけん工房の活動内容を知っていただいてから、養成講座の申込みをしていただきました。

たんけん工房の説明会、体験塾の見学会には8名の方が参加、養成講座には7名の方に参加いただきました。【養成講座】は2日間の集合講座と、2回の現場実習です。集合講座では体験塾のテーマ実習とともに、体験塾で子どもたちと接する際に最も大切なこととして、現役教員の方より、「ほめ方、叱り方のポイントや、安全への配慮」についてお話をうかがいました。その後、体験塾でアシスタントとして現場実習を2回体験していただきました。

そして9月18日に実践へのオリエンテーションを行ない、6名の方が入会していただく予定となりました。新しく仲間になるスタッフをどうぞよろしくお願ひいたします。

(相川 正光)



養成講座に参加され、講義や実験に使う工作実習では、みなさん真剣な面持ちで取り組んでおられました。

夏休みには、公民館など7会場で出前講座を開催しました

- 7月26日 御所見公民館 ふしぎな噴水 ヘロンの噴水を作ろう
 - 7月27日 鵜洋児童館 磁石と電気の不思議を実験 モーターを作る
 - 7月28日 辻堂公民館 磁石と電気の不思議を実験 モーターを作る
 - 8月 2日 明治公民館 音を作ろう 指ピアノ
 - 8月10日 湘南台公民館 セミの羽化観察
 - 8月26日 鵜沼市民センター 磁石と電気の不思議を実験
モーターを作る
 - 8月29日 石川児童館 にじ色の涙を作ってみよう
- スタッフには忙しい夏休みでしたが、参加した皆さんはよい体験になったと思います。



夏の恒例講座 セミの羽化観察

おもしろ科学体験塾は、「やってみよう！考えてみよう！」をテーマに子どもたちの科学する心が芽生えることを願っています。

取材と記事制作：藤沢地区グループ：品田、郷

横浜東地区グループ便り

“子供目線で初主任”「でんぷんの化学」

今井 裕子



昨年の夏休みに小5の息子から「じゃがいも以外の食べ物にヨウ素液をたらすとどうなるかな？それを自由研究でやってみたいんだけど・・・」と相談されました。

身近にある食品で実験ができることの楽しさ・子どものほうから湧き出てくる発見・疑問などなど、沢山のことに気づかされました。

このことが「でんぷんの化学」の主任を引き受ける動機となりましたが、リハーサルでは、私が「子どもに伝えにくいなあ・・・」と曖昧にしていた箇所に意見が集中しました。頂いた意見を参考にしながら何度も組み立てなおしました。ところが、話がスムーズに運べない、つながらない・・・本番までの時間は差し迫っていきます。

ある時、息子の一言で気がつきました。子どもに分かる言葉で説明すればいいんだ・・・と。私は大人言葉にとまどい、子どもの目線にたつことを忘れかけていました。

そうだ、お菓子のサンプルは子どもに人気のあるものを用意しよう！本番では「私、これ好き！食べたいなあ」という子どもたちの声に囲まれました。



でんぷんは予想以上に子どもたちにも身近なものでした。体験塾は、子どもたちとともに新しいものを発見していけるとかだと思います。それがひとりひとりの経験になり将来につながるかもしれない、そういった貴重な一瞬に関われる素晴らしさを秘めていることに気がつきました。

今回のでんぷんの科学で、本番までにいろいろな相談にのっていただいた方々、そしてアシスタントをしてくださった皆様、本当にありがとうございました。

“子供たちの歓声”「汐小チャレンジデー」

島田 祥生



太鼓をたたくと、風船を持った児童が不思議な顔をする。クント管を動かすと、子どもたちが歓声を上げる・・・今年も、9月3日に汐見

台小学校のチャレンジデーの講座で、「見ようさわろう、音のせかい」を行ないました。

この催しは、地域・保護者・学校と力を合わせた、3～6年生が全員参加の全校規模の行事で、10ほどの団体・個人がそれぞれの講座を受け持ち、1コマ1時間の授業を2コマ行うものです。今年は、担当の講座に、それぞれ30名、31名の参加がありました。

「音は、さわったり見たりはできないよ」と顔に書いていた子供たちが、太鼓と風船で、音の正体を発見し、クント管で音を見て、さわれないと思っていたものがさわれた、見えないと思ったものが見えた、目をきらきらさせて「音のせかい」に浸ってくれていました。奇しくも、会場の理科室には、「育てよう！問題解決の力」の標語が掲げられており、そのひとつの『見つける力』を実践できたひとコマでもあったかと思いました。

見つける力
(問題の発見・)
興味・関心・疑問をもつて
よく見てみよう
感じてみよう・ひたしてみよう

いっばしのアシスタントに成りたい

吉田 イチ子



生まれは東京都大田区。小さいときから六郷橋を通る箱根駅伝をいつも見ていました。

学生時代はグラウンドホッケーで国体優勝もしていますが、科学に役立っているとすれば体力でしょうか。

海洋生物が好きで水族館とかテレビでしか見たことのない海の中をどうしても見たいと箱メガネを自分で作り海の中を見て物足りません。65歳でとうとうスノーケリングを習って大満足。現在は時間を見つけ「細胞」も勉強中。

友人から工房の養成研修のお知らせを渡され、先ずは年齢制限が無く教えて頂けるのとことに大変うれしく参加しました。

異業種の経験を積み重ねた方々の集まりであることに驚かされました。年を重ねても好奇心を持っていれば何でも出来るように思えてきて皆さんに感謝したことを覚えています。

その時、“若い”が財産でなく、“若さ”が財産と感じました。何かチャンスが無いと勉強しないので中学理科の発展的学習の参考書を買って求め勉強の再スタートです。

何より自分が楽しい。この気持ちを友人に分けてあげたい。私に何が出来るか未来をになう子供たちに科学に興味を持たせるにはもっとアシスタントが必要。実際に子供たちに接してみると自分の作品を嬉しそうに持ち帰る姿は、何かを得たなと感じます。アシスタントにとって一番うれしいときです。

横浜北地区グループ便り

今回は、2年ほど前からお付き合いを始めた川島町こどもログハウスで行われた林富士雄さんのサイエンスショー（通称「富士さんのサイエンスショー」）について、また、現在大学生として電池の世界を「たんけん」している工房会員の石井さんより、大学生活の中で感じたことについて、コラムを寄せていただきました。（森越 彩）

富士さんのサイエンスショー

蝉時雨の中、川島町こどもログハウスにて、親子約40名を観客に林さんのサイエンスショーが開催されました。

前半「ドキドキ風船ワールド」というテーマで、風船に串を刺したり、水風船をアルコールランプで炙ったりと、見ている子どもたちはハラハラドキドキです。実験は水もの、なかなか予定通りにいかない場面もありましたが、そこが逆に親しみ溢れるショーになっていたと思えました。

後半の「空気はすごい力持ち」では、真空タッパーの中で巨大化していくマシュマロに大喜びの子どもたち、真空吸盤フックで一升ピンを持ち上げるシーンにも皆ビックリです。

最後の三角フラスコの中に、水風船が吸い込まれていく実験では、なかなかフラスコが冷めず、会場一丸となって応援するように見守る様子が印象的でした。

その後の「ストロートロンボーン」工作も盛り上がり、蝉時雨に負けない、大きな「ストロートロンボーン」の音色がいつまでも、響いていました。（神林 節子）



写真：大人も見入る、林さんのパフォーマンス！



大学生活の雑感



石井正司です。一念発起して昨年4月から慶應義塾大学理工学部博士課程で若い人たちに交じってリチウムイオン電池の研究をしています。40年以上ぶりに大学に戻り、若い学生たちと毎日実験に励むのは（授業はありません）それなりの楽しさがあります。

関係学会は「電気化学会」ですが、秋の学会イベント

で修士二年の学生が子どもたちに電池の事をどんな風に教えたらよいかという事で、工房の「レモン電池」の経験を活かしていろいろと経験談を伝えるなど、和気あいあいとしています。

ただ40数年前と異なるのは、当時応用化学科の女子学生が4.6%であったのに対し今では29%に増えていることです。企業に居た時も女性研究者の能力の高さに感服していましたが、現実これだけ理系女子の卵が育まれていることを身近に感じ、また、毎日の実験・解析でも私のような老人が、20代の女子学生にいろいろと教を乞うことが多く、女子学生の将来が楽しみです。

私どもの研究室の准教授片山先生が「女性研究者の支援のあり方」というエッセイを電気化学会誌6月号に書いています。引用しますと「さらに女性研究者を増やすには、まず、小中学校で男女を問わずしっかりと理科教育を行って、理系に強い関心を持つ児童・生徒をたくさん育てることが最も大事」と書いています。だんだん世間でもこのようなことを考える人が多くなってきていますが、たんけん工房では、もっとこのようなことを男女共同参画と言う視点から、政策的に考えてみる必要があるような気がします。工房の設立趣旨書には「行政や学校企業などとも協働事業を行い…」とあり、設立10年を迎えるに当たり「趣味に偏ったように見える活動」をこの文章のようにもう一度原点に戻す必要があることも学校で勉強しながら感じている今日この頃です。もう博士課程も半分過ぎてしまいました。卒業できるように頑張ろうと思います。

工房の皆様も元気で活躍ください。（石井 正司）



会員プロフィール紹介;

質問項目(7 ページ)にお答え頂くか、自由に自己紹介をして頂く形で、原稿を頂きました。



佐々木邦明 さん
(北 Gp)

- A1 岐阜県恵那市母の実家・疎開先で生まれ、横須賀で、10歳まで暮らす。親戚の紹介で現住所に引越し現在に至る。どじょうやハヤは居なくなったが、追分市民の森かあるせいか今でもホタルは楽しめる。学生生活、勤め人時代全て実家から通う。
- A2 青少年指導員活動現役14年OB8年、毎年夏休み工作教室に参加。工作内容のマンネリ化を危惧していた。青指会長からの依頼もあり新たな手技、知識習得を目的として参加することを決意。
- A3 夏休み工作教室の対象者は地域の1年から6年までの小学生。自治会回覧や子ども会を通して募集(参加費100円)。時間も2時間程度で作る楽しみが主な狙い。「なんで?どうして?」と考えてもらう工作が出来たらと思案中! 現在、アシスタント見習い、色々習得中です。
- A4 日常は庭木の剪定や野菜づくり。時々青指活動。趣味は魚釣り(今は鮎)と旅行。大学の公開講座受講。何校か受講しましたが、慶応・日吉の講義が近くて安くて楽しいです。
- A5 何でも触ってやって見るのは良いが、結果をすぐ求め「なんで、なぜ」ともう一歩踏み込まないように見受けられる。そこに興味を持たせたい。そして色々なことに触れ、将来の道を探す一助になればと思う。
- A6 8月27日、青指主催の夏休み工作教室に参加し、フーメランとストロートンボ製作実施。参加者は1年から6年の小学生33名で、全員が順次製作にとり組んだ。ストロートンボは小さい子も飛ばし方を教えたら上手く飛ばせ、大変好評だった。フーメランは古村さんの厚紙より少し薄くしたもので羽根を製作した。遠くまでは飛ばないが、狭い室内でよそれなりに飛び良かった。



(佐々木さん 続き)

サイドスローで飛ばす子もいて楽しんでた。5年生の子には沼田さんから提供して戴いた葉書フーメラン作成もして貰った。二つ折りタイプで製作した。作品は重厚感と絵葉書の図柄が模様となり綺麗でした。3名で2時間指導し、心地よい疲れを味わいました。

反省会ではインドアプレーン、ヘリコプター、紅の小箱、テクテクぼうや、セミの抜け殻研究等々たんけん工房の活動内容を紹介。来年は新入会員が生まれそうです。

塩手 弘美 さん
(西 Gp)



- A1: 生まれも育ちも横浜ですが、仕事の都合で長野県の佐久市に住んでいました。標高が高く冬はとても寒かったので横浜に戻ってくると、暖かくて過ごしやすいと実感しました。今は永野小学校の近くに住んでいるのでたんけん工房の活動をするのに便利です
- A2: たんけん工房に参加するきっかけは、自分の子どもが参加した時に見学したのがきっかけです。子どもたちが楽しそうにしている、私も見ていてもしろそうだなと思いました。その時ボランティアを募集していると聞いて、自分でもお手伝いできるならやってみようと思って研修に申し込みました。
- A4: 趣味はビーズでアクセサリやマスコットを作る事です。フェルティングニードルなども最近興味があります。
- A5: 今の子どもたちは全般に不器用な子が多いような気がします。ゲームなどのボタンを操作する能力はすごいのですが、自分の手を使っていろいろな物を作ったり工夫したりすることをもっと欲しいと思います。
- A6: 今は主に受付をしています。アシスタントとしても参加して行って、子どもたちと一緒にテーマを学んで楽しめたらいいなと思っています。

会員プロフィール紹介;



河上郁夫 さん

(東 Gr)

A1: 満州生まれです。残留孤児にならずによかった。港南区笹下住まいです。公園墓地と桜道のそばです。子供の頃から読書が好きで、運動は苦手でした。小学校に入った頃、買ってもらった雑誌の付録の工作を喜んだ記憶があります。学校では理科が好きでしたが数学は苦手な化学に進みました。化学会社で農薬医薬の製造研究、後には営業、資材、特許、薬品安全など。

A2: 定年退職後、近くのこども科学館でイベント要員のボランティアに応募し、そこでたんけん工房のスタッフ養成研修を知り応募しました。

A3: 子供達が身近な事に疑問を持ち、それについて考えることができるようになるための、何らかの手助けがしたいと思っています。

テーマを主導するのは荷が重いですが、既存のテーマの検討や改良などを考えるのは好きです。

A4: 趣味は、カメラ、パソコン、インターネット、リサイクルショップ巡り、中古カメラ、古本の収集、最近はネットオークションにはまっています。工作自体はあまり得意ではありませんが、工具にも興味があり使う宛もなく(安い)ドライバーセットなど購入したりしています。

他の活動は知人の店のHP更新、出身高校同窓会HP更新を不定期に。

A5: 読書。運動。分解。何でもやってみること。

A6: 体験塾の幅広いテーマとその内容に感心しています。各テーマの具体的な内容を知るには塾に参加するしかないようですが、データベース化するといいのではないのでしょうか?たとえば、シナリオを会員ページに集約して閲覧出来るようにするなど。

A1: 生まれた所: 鎌倉市大船、小学校4年まで松竹大船撮影所から歩いて30秒位の所に住んでいた。24歳で戸塚に移住したが、引っ越して25年が経過した。仕事は化学工場で電気設備の維持・管理を行っています。

A2: 何か地元で子供たちに貢献できる活動はないかと探していた時に、たまたまホームページを見たのと、青少年指導員の会長がチラシを持ってきて、研修会への参加を進めてくれたこと

A3: 自分が子供の時に、電子工作や模型飛行機の製作が好きだったので、何れはやってみたいと思います。

A4: 青少年指導員と消防団。仕事が忙しいため平日は活動に参加できないことが多いが、休日は極力参加するようにしている。



駒井 敏雄さん

(西 Gr)

A5: たんけん工房で学んだことを、単なる実験工作の授業で終わらせるのではなく、他で生かしてもらうこと。

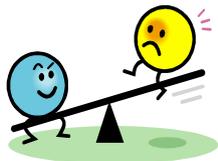
A6: 保全担当のため、夜間休日も呼出しがあり、思うように活動に参加できないこともありますが、できる範囲で頑張りたいと思いますので、宜しくお願いします。

質問項目:

- Q1 生まれたところ、今住んでいるところと、ごく簡単な略歴を差し支えない範囲でお書きください。
- Q2 たんけん工房に参加するようになったいきさつと、動機を書いてください。
- Q3 たんけん工房でやってみたいことはどんなことですか具体的なテーマでも、夢のイメージでも。
- Q4 趣味や他に活動していることはどんなことですか?
- Q5 子どもたちに ぜひすすめたいことはなんですか?
- Q6 その他付け加えたいことがあればご自由に一言。

今号では、6名の方のプロフィールを6ページから8ページに掲載しました。ほかに、三つ田さん、密島さん、吉野さんから原稿を頂いていますが、紙面と編集の都合で、次号に振り向けさせて頂きました。

会員プロフィール紹介;(7ページから続き)



辻村勝彦 さん

(西 Gp)

A1: 大阪府堺市に生まれ、市内の小中高を経て大阪市内の大学で理学部化学科を卒業。化学品メーカーに就職して初任配属が九州宮崎県でした。それ以来転職は何度もしましたが、ついに大阪に住むことなく、横浜市戸塚区に定住しております。関西弁と偽標準語のバイリンガルです。今年で、古希になります。

A2: いまだに業務委託を受けて少し仕事をしていますが、少なくなってきたところ、家内が戸塚区の広報にこの工房のスタッフ募集の記事を見つけました。元々教育に関心があったので、気軽に申し込みました。

A3: 化学が専門ですが、工場勤務が長かったので機械系も得意です。化学系の実験は危険が伴うのと感覚的に理屈をイメージしにくいので、塾のテーマとしては難しそうです。物質の成り立ちや、結晶/非結晶などテーマに出来ないか考えてみたいです。

A4: 仕事が趣味みたいなものですが、もっぱらテニスです。体力が低下傾向にあり、たんけん工房にウエイトが移っていきそうです。

A5: 何事にも疑問を持つこと。大人に何でも質問すること。自分で作ってみること。

子供達の質問に真剣に答えられない親や大人が、たまにいるのが残念です。

ボランティア スタッフ募集

会員・非会員問わず、主として在宅でできる事務を手伝ってくださる方



電話や FAX を使って
情報の中継、FAX 送受信。
携帯やパソコンでメール
連絡など

年齢を問わず、お手伝いいただける方を探しています。(資格=パソコンでEメールできる方)

- Q1 生まれたところ、今住んでいるところと、ごく簡単な略歴を差し支えない範囲でお書きください。
- Q2 たんけん工房に参加するようになったいきさつと、動機を書いてください。
- Q3 たんけん工房でやってみたいことはどんなことですか 具体的なテーマでも、夢のイメージでも。
- Q4 趣味や他に活動していることはどんなことですか？
- Q5 子どもたちに ぜひすすめたいことはなんですか？
- Q6 その他付け加えたいことがあればご自由に一言。

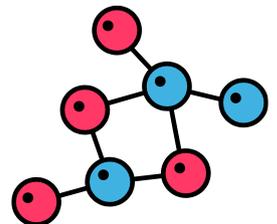
A1: 生まれは東京の大井町で、25歳までおりました。その後、仕事や結婚などの関係で半田(知多半島)~相模原~本郷台~洋光台、そして現在は港南台在住です。2年前に定年退職いたし、今は再雇用で半分(20時間)だけ金井高校で働いております。

A2: 地域の方々とともに活動しコミュニケーションを得たいという思いと地域の子どもの科学する夢を膨らませたいと思っております。昨年の春に、地域の広報紙で「たんけん工房の研修会」の企画を知り、参加いたしました。

A3: 日頃何げなく生活して接している物質を意識する楽しさや、それらに手を差し伸べていける(体験できる)喜びを子どもたちとともに味わうこと。

日置正春 さん

(東 Gp)



A4: 新たに見つけた実験教材や授業実践などを、互いに提供しあう 10~20人で活動する神奈川のサークル(2ヶ月に1度程度開催)に所属しておりましたが、みなが定年を迎えてしまい(活動場所を失い)、今はほとんど活動できなくなりました。

A5: 物真似でもよいので、まずは自分の手で触れてみる。混ぜてみる。しかる後に考えてみるのが大切だと思います。理論物理にたいして、実験化学という言葉がありますが、科学する心はまずは物に対して向かっていく子どもを育てたい。

A6: A4の続きですが、理科教育に必須なことは純物質(予算措置)と場所(実験会場)だということを痛感いたしました。